

京都大学総合博物館 2019年度企画展
The Kyoto University Museum Exhibition

地の宝Ⅱ Masterpieces of Kyoto University
Mineral Collection II

比企鉱物標本

Hiki Mineral Collection

比企博士の想いが遺る
至高の鉱物・鉱石コレクション



2019年
7月31日(水)-11月3日(日)

 京都大学総合博物館

- ◆開館時間：9時30分～16時30分（入館は16時まで）
- ◆休館日：月曜日・火曜日（平日・祝日にかかわらず） 夏期休業日8月14日（水）
- ◆入館料：一般400円／高校生・大学生300円／小学生・中学生200円
- ※20名以上は団体料金を適用
- ※障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1人、70歳以上の方、
京都大学学生および教職員、京都府下の大学在籍の学生は無料（要証明証）

- ◆主催：京都大学総合博物館
- ◆共催：京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学教室、京都大学大学院工学研究科
- ◆後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会
- ◆協力：京都府立図書館、公益財団法人益富地学会館

ICOM開催記念



地の宝Ⅱ Masterpieces of Kyoto University Mineral Collection II

比企鉱物標本 Hiki Mineral Collection

京都大学総合博物館には、京都帝国大学時代から100年をかけて集められた2万点以上もの鉱物標本が収蔵されています。なかでも工学部由来の比企鉱物標本は、現代では入手することのできない、国内では最高峰の鉱物コレクションです。これらの鉱物標本の持つ迫力や美しさは圧倒的で、まさに自然が作り出した「地の宝」といえるでしょう。工学部採鉱冶金学科の教授であった比企忠は日本中、世界中から鉱物・鉱石を集めており、当時その標本室を見たものからは国宝とも称されていました。その後、比企の鉱物コレクションの存在は学术界からさえも長年忘れ去られていましたが、工学部、そして総合博物館へと丁寧に引き継がれてきました。整理を進めていると、すべての標本に比企の手書きのラベルが添えられており、比企忠という研究者の姿や比企が標本に込めた想いまでもが現代によみがえるかのようでした。多くの金属鉱山が閉山した現代の日本ではこれらの標本が持つ学術的な価値はかけがえのないものです。

今、100年の時を越え、比企の集めた至高の鉱物・鉱石コレクションがふたたび展示室に姿を見せます。美しい鉱物と鉱石の世界をお楽しみください。

【講演会情報】(申し込み不要、先着順、場所は本館3階講演室、いずれも講演後に展示解説ツアーを開催)

8月10日(土) 14:00-15:00

「比企忠という研究者」白勢 洋平(京都大学総合博物館・助教)

8月17日(土) 14:00-15:00

「日本の国石」下林 典正(京都大学大学院理学研究科・教授)

9月8日(日) 14:00-15:00

「鉱物の研究と試料作製」高谷 真樹(京都大学大学院理学研究科・技術職員)

9月15日(日) 14:00-15:00

「宮沢賢治と鉱物」桜井 弘(京都薬科大学・名誉教授)

10月5日(土) 14:00-15:00

「近代日本を支えた鉱物資源」豊 遙秋(産業技術総合研究所地質標本館・元館長)

10月19日(土) 14:00-15:00

「本草学から鉱物学への道」石橋 隆(益富地学会館・研究員)

【関連ミニ展示】 京都府立図書館で8月23日(金)から一か月間、関連ミニ展示「第三高等学校の鉱物標本」を行います。

京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL (075) 753-3272
FAX (075) 753-3277
info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp
http://www.museum.kyoto-u.ac.jp

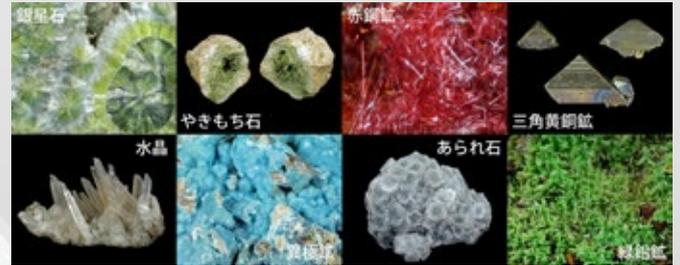
アクセス
市バス停留所「百万遍」より徒歩約2分
京阪電車「出町柳駅」より徒歩約15分
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



【展示解説】

◎地球をつくる鉱物の世界

地球は数多くの鉱物からできています。色やかたち、重さも様々な鉱物たちですが、その化学組成と結晶構造から系統的に分類することができません。普段は目にするのできない鉱物の結晶の美しさや自然の不思議に出会えます。



色もかたちも多様な鉱物標本



輝安鉱(愛媛県市ノ川鉱山産)

◎社会を支えた鉱石と鉱山

かつての日本には数多くの金属鉱山があり、社会の発展のために金、銀、銅、鉛、亜鉛などの鉱石を採掘していました。現在の日本ではほとんどすべての金属鉱山が閉山しており、鉱山や鉱石は身近なものではなくなってしまいました。100年前の日本各地の鉱山の最高品位の鉱石を見ることができます。



銅鉱石(黄銅鉱)
(石川県遊泉寺鉱山産)

◎比企忠と「標本の志るべ」

比企忠(1866-1927)は、日本の鉱物学の黎明期を生きた鉱物、鉱床、地質、博物学者であり、生涯をかけて多くの鉱物標本を集めました。病床で「標本の志るべ」と題した自身の標本の解説書を遺すほどに標本を大切にしており、比企の遺した言葉からは標本への深い思いが感じられます。



比企忠肖像画



標本の志るべ



岡野隕石(兵庫県丹波篠山市落下)